

1. 現状分析と今後見込まれる変化

中之島地域戦略プラン (案)

はじめに・現状

■中之島地域戦略プランの目的

国際的な業務・文化・芸術・交流拠点を形成する「水都大阪のシンボルアイランド」として、官民が連携し未利用地の土地利用転換を図りながら、持続的に活力を生み出していくための基盤となるプランを目指す。今後、「中之島地域戦略プラン」をもとに、周辺地域と連携を図りながらエリア全体の魅力を高め、人々のクリエイティブ・ライフを支えるまちの実現を目指す。

■中之島エリアの現状分析

① 歴史

蔵屋敷が軒を連ねた江戸時代以降、経済だけでなく、文化や教育でも先進的な取組を重ね、大阪の中心地として繁栄してきた



中央公会堂

② 上位計画の位置づけ

グランドデザイン・大阪などにおいて、水都大阪のシンボルアイランドとして位置付けられている



グランドデザイン・大阪(2012年)

③ 土地利用

特定都市再生緊急整備地域に指定されており、歩行者空間の充実を図りながら水辺景観に配慮した都市開発が進められている



越中橋から眺め

④ 景観形成

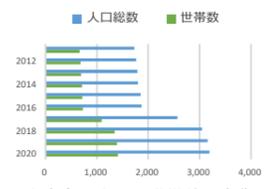
大阪市景観計画において重点届出区域に指定されており、中之島公園、土佐堀川、堂島川が景観重要公共施設と位置付けられている



中之島公園

⑤ 人口

近年はオフィスワーカーを中心とする昼間人口だけでなく、6丁目を中心に高層の集合住宅が開発されたこともあり夜間人口が増加している



中之島の人口・世帯数の変化

参考：評価

2020年10月発表の「SUUMO住んでいる街実感調査2020関西版」では、各項目で上位にランクインし、魅力が評価されている

- 住民に愛されている街(駅)ランキング
 - 1位 苦楽園口
 - 2位 中之島
 - 3位 甲陽園
- 今後発展しそう感じる街(駅)ランキング
 - 1位 新福島
 - 2位 福島
 - 3位 中之島

取組状況

■外国企業等呼び込むための地域戦略(中之島地域部会 2016年策定)の取組状況

2016年策定の地域戦略に基づき、官民で着実にまちづくりに取り組んでいるが、なにわ筋線の事業決定や新規施設の整備など、新たに考慮すべきまちの動きが生じているため、今後の取組について改めて検討が必要である

外国企業等呼び込むための地域戦略	現状	関連する構想・計画・取組等	新たな視点
【ビジョン】 グローバルな企業、人材、情報を集積させるため、地域に蓄積した歴史、文化と快適で美しい水辺の都市環境を活かした多様な国際交流エリアを整備		・環境先進都市(2005・中之島まちみらい協議会) ・魅力活力創造都市(2008・中之島まちみらい協議会) ・中之島まちづくり構想(2013～・中之島まちみらい協議会)	
【1 国際的ビジネス環境整備】 (1)グローバル企業に選ばれる国際交流エリアの整備を促進 ①国際的な都市型MICE拠点としての機能強化 ②グローバル・ハイエンド人材の確保 ③歩行者ネットワークの充実などの都市環境の整備 ④環境や安全・安心に配慮した持続的なまちの運営を実現 (2)外国人の移動・情報・滞在・居住環境の整備 ①サイン案内板の整備 ②広域交通ネットワークの早期形成 ③外国人が長期滞在できる環境の整備	①大阪府立国際会議場リニューアル(2020) ②未来医療国際拠点の整備(2024春開業予定) ③中之島3丁目四季の丘から大阪中之島美術館、国立国際美術館への歩行者デッキ整備(2022年2月整備予定) ④都市再生安全確保計画にもとづくエリア防災の活動(継続中) 河川水利用地域冷暖房システム等の先進的・省エネルギー技術導入の推進(2・3丁目からのネットワーク延伸中)	・大阪におけるMICE推進方針(2017・大阪MICE推進委員会) ・中之島地域 都市再生安全確保計画(2016・中之島地域部会) ・中之島環境ビジョン(2010・中之島eco2連絡協議会) ・Smart Future Island NAKANOSHIMA(2017・中之島まちみらい協議会)	新規施設の整備および計画が進行中
【2 シティセールス】 (1)プロモーション・ツールの整備 ①HP・情報誌・パンフレット等の整備によりPR ②都市模型の制作 (2)国内外におけるシティセールスの展開 ①国内外の展示会等への出展 ②エリア発の国際的イベントの実施 ③中之島地域への企業誘致体制の整備	・大阪大学中之島センターのアゴラ構想による改修計画(2023) ・MIPIM JAPAN -ASIA PACIFICにおけるシティセールス(2016)	・中之島アゴラ構想(2016・大阪大学) ・クリエイティブ・アイランド中之島(2020～・クリエイティブアイランド中之島実行委員会)	なにわ筋線の事業決定 居住者の増加
【3 都市機能の充実】 (1)中之島フェスティバルタワー・ウエスト (2)新しい美術館の整備	・中之島フェスティバルタワー・ウエストの開業(2017) ・こども本の森 中之島の開業(2020) ・大阪中之島美術館の整備(2022年2月開館予定) ・新駅の整備(2031年春予定) ・小中一貫校(2024年度開校予定)		新規施設の整備・開業 新駅整備の決定 居住者の増加

地域戦略と地域の変化の擦り合わせが必要

■主なエリア活動主体

(一社) 中之島まちみらい協議会

中之島ウエスト・エリアプロモーション連絡会

クリエイティブアイランド中之島実行委員会

水都大阪のシンボルアイランド 中之島

ビジネス・文化・自然の融合が生み出すクリエイティブ・ライフ

施設整備計画および今後見込まれる変化

■新たな施設整備と歩行者ネットワーク

- 教育** 小中一貫校(2024年度開校予定:6丁目)
- 文化** 大阪中之島美術館(2022年2月開館予定:4丁目)
大阪大学中之島センター改修(2023春完了予定:4丁目)
- 産業** 未来医療国際拠点(2024春開業予定:4丁目)

未来医療の産業化・国際化に寄与する“知の循環”を促進する施設として、MICE施設や企業・研究機関等の交流・連携スペースなどを備える

交通 なにわ筋線新駅(2031春開業予定:4,5丁目)

歩行者ネットワーク

中央公会堂周辺道路の歩行者空間化や大阪中之島美術館整備に伴う歩行者デッキの延伸など、歩行者ネットワークの整備が進められている



大阪中之島美術館

未来医療国際拠点

小中一貫校

※イメージパースは基本設計段階のものです

こども本の森 中之島

大阪中之島美術館と周辺施設をつなぐ歩行者デッキ整備

歩行者空間化(公園化)の整備を進める中央公会堂前

■広域での中之島の位置づけ

なにわ筋線の開通により、関西国際空港や新大阪駅とのアクセスが大幅に改善し、国内外における中之島の位置づけを向上させる可能性がある

【なにわ筋線について】
北梅田駅(仮称)とJR難波駅及び南海本線新今宮駅をつなぐ新たな鉄道路線
※利用見込み…約24万人/日



参考：新型コロナウイルス感染症の経験

新型コロナウイルスの経験により、都心でありながら屋外環境に恵まれた中之島の環境が見直される可能性がある



豊かなオープンスペースがひろがる中之島公園

地域特性によるゾーン分け

■ゾーン分けのポイント

ポイント①
現状の空間構成要素および機能・用途により分類

ポイント②
周辺のエリアと連動した4つのゾーンを設定

ポイント③
誘導機能だけでなく、今後そのエリアで生み出したいシーンを検討

■各ゾーンの特性



	Aゾーン	Bゾーン	Cゾーン	Dゾーン
空間構成要素	・中之島公園や両岸の遊歩道など閑静な空間がひろがっている ・両河川の間隔が広く、比較的大きな街区のなかに開発用地がひろがっている ・北側の川岸に遊歩道が整備されている	・両河川の間隔が狭く、比較的小さい街区に高層建築がちな都市景観を形成している ・両岸に遊歩道が整備されている	・両河川の間隔が狭く、比較的小さい街区に高層建築がちな都市景観を形成している ・両岸に遊歩道が整備されている	・大阪市役所や中央公会堂など歴史ある建物がつなっている ・対岸には、北浜テラスや八軒家浜など水辺に開いた空間が整備されている
機能・用途	・関西経済連合会や関西経済同友会など関西を代表する経済団体が集積している ・6丁目を中心に住民が増加しており、2024年には小中一貫校の開校が予定されている ・中之島の対岸には、中之島ゲートパークや中央卸売市場が立地している	・国際会議場や対岸の堂島リバーフォーラムなどを代表する経済団体が集積している ・国立国際美術館をはじめ文化施設が立地し、大阪中之島美術館の開業が予定されている ・なにわ筋線の開通に向け、市有地や民間敷地で開発が予定されている	・淀屋橋駅を中心にオフィスや宿泊施設など都市機能が集積している ・中之島雪雲美術館やフェスティバルホールなど、文化施設が立地している	・中之島公園に加え、歩行者空間化進んでおり、豊かなパブリックスペースが広がっている ・市立東洋陶磁美術館やこども本の森 中之島など文化施設が立地している